

体験で学ぶ防災・減災

		代表者	一井	瑛介 (理学 B2 年)	
構成員	山口	純平 (教育 M1 年)	綾部	晃大 (工学 B2 年)	阿久津 彩香 (理学 B2 年)
	倉本	大雅 (理学 B2 年)	砂川	泰輝 (工学 B2 年)	中村 茉由子 (理学 B2 年)
	松下	侑希 (理学 B2 年)	砂田	雅裕 (理学 B1 年)	多岐 涼太 (工学 B1 年)
	原口	光 (工学 B1 年)	山本	怜央 (工学 B1 年)	

1. 本プロジェクトの目的

地震が少ない山口県だが、実は何本もの活断層が通っています。しかし、このことを知らない県民も多く、地震に対する意識が低いように感じられます。近年、南海トラフ地震が危険視されているように日本に住む私達にとって地震は避けて通れないものであるため、起地震への興味関心を持つと共に防災や減災の意識を高めてもらいたいと思い、本プロジェクトを発案しました。

このことを実現するために、地域の方々や学生に起震車体験をしてもらうこと、防災や減災について学習するための研修合宿を行い、自分達の知識向上、そしてその知識の周知を主な活動として計画しました。

2. 年間の主な活動

- 6 月 「七夕祭」の起震車体験イベントの前に防災に関する学習会を開き、防災に対する知識を身につけた上で、イベント当日に配布するビラやポスターなどを作成
イベントの2週間前にはイベント当日の役割や流れなどを確認
- 7 月 「七夕祭」当日の動きの確認と、ポスターの作成
「七夕祭」の延期が決まったため、起震車体験イベント開催の有無と合宿についての話し合い
- 9 月 熊本県と長崎県にて火山災害について学習するための研修合宿
- 10 月 東日本大震災の被災地を視察し、「ぼうさいこくたい」への参加
「ホームカミングデー」のポスター制作、「ホームカミングデー」と「自主活動交流会」へ参加
- 11 月 夏季休業期間中の活動の振り返り、防災に関する交流会についての話し合い
- 12 月 山口大学の災害安否確認メールシステムの予備実験への参加
防災についての講習会開催の計画と準備
- 1 月 他県の学生と防災ネットワークを作ることを目的とした電話会議
学内で防災についての交流会を開催
- 2 月 被災写真洗浄活動への参加

3. 活動内容

3.1 普段の活動

メンバーの知識向上のため、地震や火山噴火などの自然現象について精通した人が他のメンバーにレクチャーしたり、個々人で調べ学習をして知識を向上させたりしました (図 1)。

3.2 起震車体験について

地域の方々もたくさん来場する「七夕祭」において起震車のブースを開設し、実際に体験をしてもらう計画を立てました。そのために、地域の方々へ協力のお願いや起震車の手配、小学校や中学校への広報活動、さらに地震に関するポスターや非常時用品などを展示するための準備をメンバーで協力して行いました。ポスターは、小さい子どもにもわかりやすいように文章を簡潔にしたり、絵を多用したり工夫を凝らしました (図 2)。また、地震対策へどのくらいの知識と危機感があるかのアンケートも実施しようと準備をしていました。しかし、当日は豪雨のため延期となってしまいました。延期日での実施も考えましたが、夏季休業中ということもあり、運営に必要な人数が集まらない、そして起震車の再手配の手続きなどもあることから「七夕祭」での実施は厳しい、という結論に至りました。これまでの準備や協力してくださった方々のことを考えると非常に残念でしたが、準備



図1 普段の活動の様子

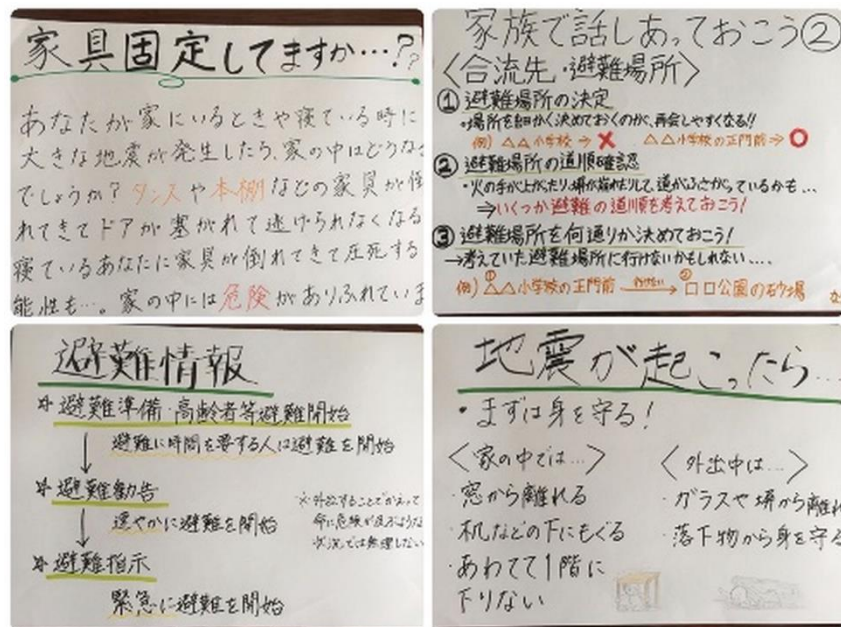


図2 ポスターの一部

を通して自分達の知識向上も見られたので良い経験になったと思います。

3.3 防災や減災について学習するための研修合宿（熊本県、長崎県）

防災や減災を周知するにあたって自分達の知識向上も大切だと思い、この研修合宿を計画しました。今回は、火山災害に焦点を置いて防災や減災について学習することを目的としたため、現在も火山活動が活発な阿蘇と雲仙に赴きました。阿蘇では火山博物館と中岳の火口の見学を行いました。博物館では、火山活動開始時から現在に至るまでの過程や噴火の様子を動くジオラマや映像で見ることができました。火口の近くでは、安全レベルの表示や噴火した際に噴石などから身を守るための退避壕を設けるといった防災対策がされていました。また、破壊されている建物もあり、噴火の恐ろしさを実感しました（図3）。雲仙では、がまだすドームと大火砕流体験館、土石流家屋保存公園を訪れ、火砕流や土石流について学習しました（図4）。火山噴火という噴煙が上がり噴石が降ってくるイメージが強かったのですが、雲仙普賢岳の噴火は火砕流や土石流による被害が大きいということを知りました。噴火直後だけでなく、その後も天候など些細な変化に警戒する必要があるのだと感じました。この2日間で、現地に行ったことで初めて知ったこともあり、火山災害の認識が変わる部分も多々ありました。



図3 中岳にある破壊された建物（熊本県阿蘇）



図4 土石流家屋保存公園（長崎県雲仙）

3.4 防災についての交流会

1月17日は兵庫県南部地震発生日で、防災とボランティアの日でもありました。私達は、この日に学内で防災についての交流会を開催しました（図5）。夏に行った防災や減災についての研修で学んだことを発表したり、防災や減災について説明したりしました。また、クイズも何問か用意して楽しく学ぶ機会になったと思います。防災に詳しくないが宣伝ポップを見てきてくれた人がいて、そのような人にも防災や減災に興味を持ってもらえたので良かったです。しかし、準備期間が少なく宣伝不足だったことは反省点です。私達が約1年を通して活動して得た知識や考えを少しでも外部に発信することができたので、いい交流会になったと思います。

3.5 他大学との交流

1月に、災害時の情報共有などを目的とする防災コミュニティ設立に向けた電話ミーティングに参加しました。西は山口県、東は京都府までの防災グループやボランティア団体が問題点や目的の明確化などの確認し、意見出しを行いました。短い時間でしたが、他の防災系の団体と交流できたのは貴重な機会になりました。また、3月には大谷大学と島根大学の学生と交流を行いました。災害やボランティアについての様々な意見を聞くことができ



図5 交流会の様子

ました。今までの活動経験や地域によって、災害への考え方に違いがありました。広くたくさんの意見を聞ける良い交流になりました。

4. おわりに

「七夕祭」延期などもあり、当初予定していた活動を計画通りに進めることができませんでした。しかし、研修合宿や防災についての交流会を通して自分達が学ぶのはもちろんのこと、学生の方々にも防災や減災について広めることができたと思います。また、代表者数名が被災地訪問や「ぼうさいこくたい」への参加、被災写真洗浄活動などを行うことができました。

今回、地域の方と交流する機会がほぼ設けられませんでした。そのため、「山口大学おもしろプロジェクト」の活動は終わっても、この1年の活動で得たことを今後も一人ひとりが周囲に伝え続けていこうと考えています。また、防災や減災を学び広めるうえで、今までに起こった災害のボランティアに参加したり、振り返ったりすることはとても大切なことだと思いました。今後、機会があれば積極的にボランティア活動にも参加していきたいと思います。「山口大学おもしろプロジェクト」の活動を続けていくうえで、計画通りにいかないことも多々ありましたが、充実した活動ができたと思います。